



株式会社ユニカフェ
2022年度 サステナビリティレポート

2023年 3月

ユニカフェが考えるサステナビリティ

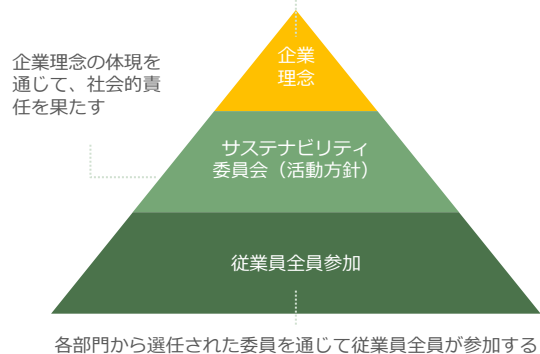
はじめに

私共は、企業理念に掲げる「人と環境に優しい企業」を目指しています。コーヒー産業を取り巻く人と環境には、国際価格に左右されるコーヒー農家の収入、栽培から消費に至るまでの温室効果ガスの排出、気候変動による生産環境の悪化などの問題があります。これらの問題はSDGsの目標とも関連しており、当社がSDGsに取り組むうえで、優先的に取り組む必要があると考えています。

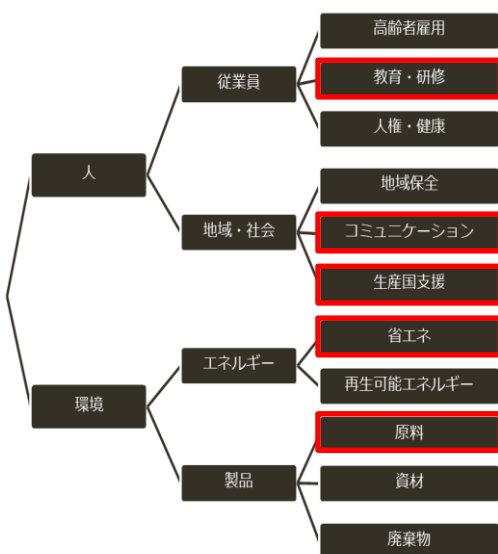
私共は、サステナブルな活動を加速度的に実行し、上記の問題をはじめとするSDGsの目標達成に貢献すべく、サステナビリティ委員会を組織し、「Think Globally As a Roastery（コーヒー焙煎のプロとして、地球規模で考えよ）」のスローガンのもと、サステナブルな活動に取り組んでおります。



「コーヒーをコアに人と環境に優しい企業を目指す」



2022年度の活動について



委員会では企業理念の下、「人」と「環境」に着目して活動を展開しており（活動項目は左図参照）、優先順位をつけた担当制で活動しております。

昨今では、認証コーヒーや一杯抽出型事業の需要が増加しています。神奈川総合工場では国内屈指の生産体制を生かしたコーヒー製造を行っています。しかし、製造には大量のエネルギーが必要で、CO₂排出量が多いのも事実です。さらに、コーヒーには2050年問題という脅威があります。よって、サステナブルな活動は今まで以上に求められています。効果的にサステナブルな活動を行うため、下記5つの重点項目に活動をしぼり、企業理念の体現を目指してきました。

- | | |
|------------|---------------|
| ①教育・研修 | ④原料 |
| ②コミュニケーション | ⑤温室効果ガス排出量の削減 |
| ③生産国支援 | |

上記重点項目について次ページよりご報告申し上げます。

ユニカフェが目指す姿

「人材育成」は経営にとって最重要テーマの一つです。従業員の活躍・成長を促す為に、「等級・職位別研修体系図」を定めています。また、サステナブルな活動は全従業員が丸となって取り組まないと達成することができません。世界的な課題であるSDGsに関する教育もサステナビリティ委員会を中心に積極的に行っています。

私共は従来から環境に配慮した取り組みは行ってきましたが、サステナブルな活動という枠組みで活動を実施する土壌は出来ていませんでした。そこで、従業員全員がサステナブルについて理解する目的でSDGsについての教育・研修を進めています。全従業員への啓蒙活動を通して、サステナブルな活動を行う文化の醸成を目指して行きます。

ユニカフェの取り組み

次世代人材育成のために選抜型教育研修、自社資格「ユニカフェコーヒーマイスター」取得支援を全社で実施しています。神奈川総合工場では安全パトロール、危機体感教育等の安全教育も実施しています。また、SDGsに関する教育もサステナビリティ委員会を中心に行っています。

2022年度の取り組み 教育・研修

サステナビリティ情報の発信



サステナビリティ委員会では、全従業員のサステナブルな活動への理解を深めるため、社内報「サステナビリティ通信」を社内に向けて発信しています。サステナビリティ通信では、SDGsについての知識や理解を促す内容を、委員持ち回りの特集記事やクイズによって、身近に感じられる形で発信しています。

2022年度は委員を対象に(株)タズミへ訪問し、産業廃棄物の処理工程を実際に目にして廃棄物の分別の重要性を学びました。2022年度からサステナブルな意見の社内公募を開始して、全従業員が自ら意見を発信する場も設けています。



2023年度の目標

サステナビリティについて発信する基盤が整ったので、次は発信した内容がどれだけ従業員に届いているかを定量化して、情報伝達の質を高めていきます。また、SDGsの理解を深める内容などの教育コンテンツ作りも進めていきます。

コミュニケーション

ユニカフェが目指す姿

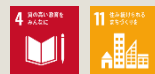
私共は、株主を中心とする当社のステークホルダーをコミュニティとし、コミュニティに存在する共通の善を全うすることを正義として行動してまいります。そのために、株主・投資家の皆様に対し、透明かつ健全な経営を全うすることや、事業活動を通じた全てのステークホルダーの皆様との交流を大切にしております。

ユニカフェの取り組み

神奈川総合工場のある神奈川県内で行われた交通安全や地域交流イベントに参加し、地域の皆様と交流を図っております。また、私共の地球にやさしいコーヒー製造を様々な方に知っていただきたく、インターネット上で、生豆の受入から焙煎、粉碎、包装までのコーヒー製造工程を一つひとつ動画で学べる「バーチャル工場見学」を開設いたしました。株主様へ定期的な報告としては、株主総会の実施のほか、日ごろの感謝を込めて優待品をお贈りしております。

2022年度の取り組み コミュニケーション

地域安全・交流イベントへの参加



画像①ドリップバッグ贈呈式

「交通死亡事故ゼロを目指す日」である9月30日に厚木警察署により行われた「交通死亡事故死ゼロキャンペーン」に参加しました。当日は、厚木警察署や地域交通安全活動推進員の方々とともに、当社が寄付した無事故を祈る思いとコーヒーをかけた「無事故ーヒー（ドリップバッグ）」を地域の皆様へ配りながら安全運転を呼び掛けました（画像①）。

10月29日、30日には、愛川町の企業が集まった地域交流イベントに参加し、認証原料100%の有機栽培コーヒーの提供、コーヒー教室の開催、当社のサステナブルな取り組み紹介を行い、コーヒーを取り巻く地球環境対策の重要性を発信いたしました（画像②）。

2023年度の目標

バーチャル工場見学サイトをご視聴いただいた方からのお問い合わせ等、バーチャル工場見学サイトを通じて、皆様とコミュニケーションを図っていきたくと考えております。また、よりユニカフェ神奈川総合工場のコーヒー製造、サステナブルな取り組みを実感いただきたく、新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、実際に私共の工場にご案内できるような取り組みの検討や、地域の皆様との交流も継続してまいります。



画像②イベントの様子

生産国支援

ユニカフェが目指す姿

私共は、産地でのコーヒー栽培、精選、調達、焙煎、包装、物流の一連のコーヒー製造プロセスを担うプロフェッショナル集団です。お客様のPB、OEM製品の品質実現に留まらず、お客様と供に社会的責任やサステナブルな事業活動を果たすべく、コーヒー生産国への取り組みを行っています。今後も取組産地とお客様とを繋げ、サステナブルな調達の拡大を目指します。

ユニカフェの取り組み

コーヒーの木は病気や老化により収穫量が低下するため、安定的な生産には定期的な植え替えが必要です。近年、国際価格の変動や気候変動によるコーヒー生産者への脅威が増しており、その必要性がさらに高まっています。そこで、当社は、生産者が安定してコーヒーを生産し収入を得られるように、生産者への苗木の寄贈、ならびに同エリアからの継続的なコーヒー調達を実施しています。また、寄贈する苗木は気候変動に耐性のある品種を選択することで、2050年問題への取り組みにも繋げてまいります。

2022年度の取り組み 生産国支援

ベトナム、グアテマラへの苗木寄贈とコーヒーの購入



①ベトナム

日本のコーヒー生豆輸入量を生産国別に見ると、ベトナムは年間約10万トン（2021年度）とブラジルに次いで多く、弊社でも取扱量の多い大変身近な生産国です。私共はベトナムのGia Lai省内の4県（Man Yang県、Pleiku県、Chu Prong県、Dak Doa県）において、コーヒーの木の植え替えを検討していたコーヒー生産者61世帯に対し、高収量でさび病に耐性のあるロブスタ種の品種「TR4」の苗木12,200本（1世帯あたり200本）を寄贈いたしました。苗木の寄贈は、2022年4月28日、29日の2日間に計4か所で実施された寄贈セレモニーで行いました。

セレモニーでは、冒頭に本プロジェクトの趣旨が現地パートナーの職員から説明された後、当社代表取締役社長芝谷より、生産者の皆様への日頃の感謝の気持ちと、持続的なコーヒー産業への想いを込めたビデオレターが放映され、その後苗木の寄贈と記念撮影が行われました。

寄贈先のコーヒー生産者の皆様へは、苗木と併せて、植え方や育て方など持続可能な栽培方法に関する技術的なアドバイスの支援も行い、当社への感謝と喜びの声をいただいております。



生産国支援

②グアテマラ

グアテマラのコーヒーは日本でも親しまれており、グアテマラの日本へのコーヒー生豆輸出量は、同国の輸出先の中で2番目に多い年間約2万トン（2021年度）となっています。私共は2022年7月22日にグアテマラのSanta Rosa県Ayarza地区の農家50軒に、合計10,000本の苗木の寄贈を行いました。

当日は農家の方にお集まりいただいてセレモニーを開催し、冒頭に現地パートナーの職員から本プロジェクトの趣旨をご説明いただいた後、植樹のアドバイスとともに苗木を寄贈いたしました。また、当社代表取締役社長芝谷と取締役副社長執行役員塩澤より、生産者の皆様への日頃の感謝の気持ちと、持続的なコーヒー産業への想いを込めたビデオレターもお送りし、寄贈先のコーヒー生産者の皆様から当社への感謝と喜びの声を頂いております。



2023年度の目標

ベトナム、グアテマラへの苗木の寄贈と同エリアからのコーヒーの購入を継続してまいります。また、取り組む生産国の拡大も検討してまいります。

原料

ユニカフェが目指す姿

私共は「コーヒーをコアに人と環境に優しい企業を目指す」を製品を通じて体現するため、「責任ある原料調達の導入・拡大」を目指しており、SDGsに寄与した認証原料製品の開発を進めています。認証原料の取り扱いが拡大する事で、生産国における環境保全や生産者の所得向上が期待できると考えております。

業務用製品開発



業務用製品として、認証原料を使用した商品開発を行いました。原料はレインフォレスト・アライアンス認証、有機JAS認証の生豆を使用し、梱包資材にも環境に配慮した素材でできたフィルムを使用することで、ユニカフェが目指すサステナブルな調達活動を実現します。



温室効果ガス排出量の削減

ユニカフェが目指す姿

私共は、ユニカフェグループ全体でのCO₂排出量削減（※）に取り組んでおり、2025年度の自社によるCO₂排出量を2019年度より46%削減することを目標としています。

農園から一杯のカップまで様々な人が関わるコーヒー産業を維持していくためには、地球温暖化への具体的な対策が不可欠です。コーヒーの木は温暖な気候を好む植物ではあるものの、地球温暖化の進行によって栽培適地が減少し、収穫量や品質が損なわれることが予測されています。ユニカフェは、コーヒー産業の持続的な発展に貢献し、これからもお客様に美味しいコーヒーを味わっていただくために、温室効果ガス排出量削減の取り組みを実施しています。

※ユニカフェ神奈川総合工場とアートコーヒー山梨工場のCO₂排出量を対象としています。

2022年度の取り組み 温室効果ガス排出量の削減

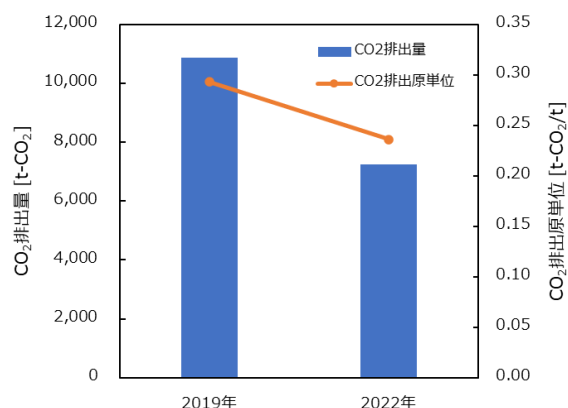
実質再生可能エネルギー由来の電力の採用



2022年度は、①1月にユニカフェ神奈川総合工場とアートコーヒー山梨工場の統合、②9月に神奈川総合工場での実質再生可能エネルギー由来電力の使用開始を実施しました。これらの取組みは、それぞれ①製造拠点の統合によるエネルギー利用効率の向上、②当工場の消費電力から排出されるCO₂の実質ゼロ化をねらいとしたものです。

2022年度のCO₂排出量は7,253 t-CO₂（2019年度比Δ33.2%）となり、CO₂排出原単位は0.236 t-CO₂/t（2019年度比Δ19.5%）となりました。

2019年と2022年のCO₂排出量の比較



2023年度の目標

神奈川総合工場のCO₂排出量、すなわち製造時のCO₂排出量を実質ゼロにすることが目標です。当工場で使用している燃料等で、CO₂排出量の算定対象となっているのは、電力と液化天然ガス（LNG）の2種類です。前述の通り、電力は実質再生可能エネルギー由来に変更したため、LNGについても、J-クレジット制度を活用してオフセットすることで、製造時のCO₂排出量実質ゼロを目指します。

